

国語選抜試験

新小五

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 葉のきき目が持続する。
会議の資料を借用する。
- (2) トラックが左折する。
自分の念願がかなう。
- (3) 昼飯をみんなで食べる。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) 五段へんそくの自転車。
花粉がひさんする。
- (2) 道路のみぎがわを歩く。
ちよきんばこを集める。
- (3) 傘をさして歩く。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の各組に共通してつづけることのできる部首の名前を、ア～カからそれぞれ選びなさい。

- (1) 立・士・寸
土・兄・申
- (2) (1) ア さんずい イ にんべん ウ ころもへん
エ しめすへん オ いとへん カ ぎょうにんべん

問二 次の各文の——線が直接かかっている部分を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

- (1) きのう ア ぼくは イ 近くの ウ おじさんの エ 家へ オ 行った。
- (2) わたしは 読書を ア 毎日 イ 十分間 ウ することを エ 母と オ 約束した。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

そのとき、だれのすがたも見えないのに、十二ばんめの子どものつきで、「じゅうさんっ。」

と、いったものがありました。^①玉をころがすような、よい声でした。

その声を聞くと、子どもたちは、

「それ、そこだっ。神さまをつかまえろっ。」

と、十二ばんめの子どものよこを、とりまきました。

神さまは、めんくらいました。

子どもたちのことだから、つかまったらどんなめにあうかもしれません。

ひとりの、せいたかのつぼの子どもの、またの下をくぐって、神さまは、森へ、にげかえりました。けれど、^②あまりあわてたので、くつをかたほう、おとししまいました。

子どもたちは、雪の上から、まだあたたかい、小さな赤いくつをひろいました。

「神さまは、こんな小さなくつを、はいてたんだね。」

と、みんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまは、もう、めったに森から出てこなくなりました。それでもやはり、、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、

「おうい、おうい。」

と、よびかけたりします。

(新美南吉「子どものすきな神さま」より)

問一 ― 線①「玉をころがすような、よい声」とありますが、だれの声ですか。文中から書きぬきなさい。

問二 ― 線②「あまりあわてた」とありますが、なぜあわてたのですか。その理由がわかる一文を文中からさがし、初めの八字を書きなさい。

問三 文中のにあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 子どもがすきなものだから

イ 子どもに遊んでもらいたいから

ウ 子どもをこわがらせたいから

エ 子どもを驚かせたものだから

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

めずらしくいいお天気でした。一面に積もった雪がきらきらとかがやく村の道を、幸助は、独り言を言いながら、歩いていました。

「おかしいな。どうしたんだろう。いつもはおとなしく留守番する子が、今朝にかぎって、^①行っちゃいけない、なんて、だをこねたが……。まあいい、みやげでも買って、早く帰ってやることにしよう。」

そのころ、子どもは、心配そうに空を見上げていました。

昼過ぎになって、急に空がくもってきたかと思うと、北風がビュウツとふいて通りました。はだかの木の枝が、カラカラと鳴りました。夕方になるにつれて、風はいつそう強くなり、ゴウゴウとうなりながら、雪けむりを上げて暴れていきます。子どもは、居ても立ってもいられないように、表に出てみたり、家に入ったりしていました。しかし、いつまでたっても、幸助は帰ってきません。

日は、とつぷりとくれました。ふぶきは強くなるいっぽうです。じっとしていられなくなって、^②子どもは、外にとび出しました。原っぱを駆けぬけて、町へ行く道をいっさんに走りました。二、三步先も見えないふぶきの中を歯をくいしばって走りました。子どもの後ろにつむじ風が起きて、^③まるで雪がいつしよに走っているようでした。

村境のおじぞう様のお堂の前に、幸助は、荷物をこしくくりつけたまま、気を失ってたおれていました。子どもは、雪に半分うずもれた幸助をようやくだき起こすと、せなかにしよいました。そして、足をふみしめながら歩きだしました。

小屋にもどり着くと、幸助の体をいろいろの横にねかせてふとんをかぶせました。

「おじちゃん、おじちゃん。目を覚ましておくれよ。おじちゃん。ね、おじちゃん。」

^④しまいには、泣き声になって幸助をゆさぶりました。氷のように冷たくなった手足をさすってみました。それでも、幸助は、身動き一つしません。

子どもは、じっと考えていました。

「^⑤そうだ、火をたこう。」

(^{なるおまさ}成尾正治「ひよつとこ」より)

(注) いっさんに——夢中になつてかけだすさま。 つむじ風——うずをまいて強くふく風。いろいろ——ゆかを四角に切つて火を使えるようにした所。

問一 ——線①「行っちゃいけない、なんて、だをこねた」とありますが、その理由として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア ふぶきになりそうだと思ったから。

イ 一人で留守番をするのがさびしかったから。

ウ 自分もいつしよに行きたかったから。

エ 病気の幸助の身を心配したから。

問二 ——線②「子どもは、外にとび出しました」とありますが、子どもは何をするためにとび出したのですか。十字以内で書きなさい。

問三 ——線③「まるで雪がいつしよに走っているようでした」とありますが、このように見えた理由を説明した次の文の

□□にあてはまる最もふさわしい言葉を、文中から四字で書きぬきなさい。

□□によって、雪がまいあげられたから。

問四 ——線④「しまいには、泣き声になって」とありますが、子どもが泣き声になった理由を表した次の文の□□A・Bにあてはまる最もふさわしい言葉を、文中から三字でそれぞれ書きぬきなさい。

・幸助が□Aなつて□B一つしないから。

問五 ——線⑤「そうだ、火をたこう」とありますが、火をたいてどのようにしようと思ったのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 火をおこして、何か食べ物を作ってやろうと思った。

イ 冷たくなった幸助の体をあたためてやろうと思った。

ウ お湯をわかして、お風呂に入れてやろうと思った。

エ あたたかくして、自分の気を落ち着けようと思った。

問六 ——線「そのころ」とは、どこを、だれが何をしていたところですか。文中の言葉を用いて、四十字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「土が死んだ」ということで、重学にもすぐに①思いあたることがありました。それは昔は、土をほるとかんたんに、みみずをとることができたのです。落葉の下や、わらなどのつまれた土をほると、そこにみみずが、いっぱいいました。そのみみずをエサにして、川や池へ魚つりにいったのです。ところがいまは、どこをほりかえしても、みみずを見ることができません。

植物の成長に必要な窒素、②磷酸、カリを土にあたえるのが、③化学肥料による農業です。重学も子どものころ、学校で肥料の三要素といって教わったのです。窒素、磷酸、カリなどは化学的につくれるもので無機質です。これらの無機質は、直接野菜や米や果物の栄養となります。それによって収穫をあげることができます。

化学肥料や農薬を使った農業は、農家の人たちの手間はふぎ、農産物の生産高をあげてきました。消費者に、安い値で豊富な農産物を供給してきたのです。

ところが、これら化学肥料は、土の中に住んでいる細菌や、糸状菌（カビなど）、ダニ、みみず、昆虫、もぐらなど、小さな生きものたちのエサにはなりません。それで、これらの小さな生きものたちはへっていき、やがていなくなってしまうます。

土の中の小さな生きものたちは、土の中を動きまわり、糞などを出して、土をたがやしてくれるのです。また、これら小さな生きものたちの働きによって、土の粒がむすびつけられてかたまります。そしてかたまりとかたまりの間に適当なすきまがつくれます。そこに水がしみ、土のかわくのをふせぎ、水はけをよくし、また適当な湿度をたもちます。そして空気をすいこみ、太陽の光をたくわえて、地面に温かみをもたせ、冷害をふせぎ、なお干害をもふせぐ働きをします。

このような、④すばらしい働きをしてくれる土の中の小さな生きものたちが、化学肥料や、農薬によって、死んでしまうというのです。小さな生きものたちが死ぬことは、土の働きをおとろえさせることです。

こうして土は、力をなくしてしまうのです。そして化学肥料と農薬でつくられた、味も香りもうすい、栄養もとぼしい野菜や米や果物が、わたしたちの目の前に、ならべられることになるというわけです。

重学は中学校のことを思いました。荒れる子どもたちは、いつもイライラし、すぐカツとします。おちつきがないのです。それでいてひ弱いのです。子どもたちの生命力がおとろえてしまっているのです。⑤それは——食生活にも原因があったのかもしれない。土の自然が弱れば野菜や果物の生命力も弱ってくる。食べものの生命力が弱れば人間も弱ってくるのは……。

死んだ土を、よみがえらせる手だてのひとつが、酒井先生は熟成した堆肥を、土に入れてやることだということです。熟成した堆肥には、土の中の小さな生きものたちの栄養が、たくさん入っています。こうした熟した堆肥でもって土の自然をまもり、野菜や果物や米をつくる農業が有機農業で、日本の昔——太平洋戦争前までは、こうした有機農業が、日本の農業の営みだったのです。

その有機農業をすすめるためには、熟成した堆肥をつくらなければいけないのですが、堆肥をつくるには、もてあまされ、しかもあふれていて、どこの自治体（村や町や市など）も、その処理にこまっている生ごみを発酵させて、使うことができます。生ごみは、土をよみがえらせる、すばらしい資源なのです。ムダにすててはいけません。

（鈴木喜代春「生ごみは大地を生かす」より）

冷害——気温が低いために農作物などが不作になること。 干害——ひでりによる被害。

問一——線①「思いあたること」とありますが、どのようなことに思いあたるのですか。文中の言葉を用いて、三十五字以内で書きなさい。

問二——線②「化学肥料」とありますが、その利点としてふさわしくないものを、ア～エから選びなさい。

- ア 農産物を育てるのに手間がかからないこと。
- イ 小さな生きものたちのエサになること。
- ウ 農産物をたくさん収穫できること。
- エ 農産物の値だんを安くできること。

問三——線③「すばらしい働き」とありますが、土の中の生きものたちのすばらしい働きとしてふさわしいものを、ア～イから二つ選びなさい。

- ア 土がたがやされる。
- イ 太陽の光があたりやすくなる。
- ウ 土をかきやすくなる。
- エ 水はけがよくなる。
- オ 空気がきれいになる。

問四——線④「それ」がさしている内容を、文中の言葉を用いて、二十字以内で書きなさい。

問五——線⑤「野菜や果物の生命力も弱ってくる」とありますが、生命力が弱るとどのような農作物になりますか。「く農作物。」につながるように、文中から十六字で書きぬきなさい。